



国指定重要文化財 弘前学院外人宣教師館 特別公開

2017年7月29日(土) 10:00 ~ 12:30
見学無料

展示資料や解説で好評を博した企画を再び！

弘前学院のシンボル、国指定重要文化財「外人宣教師館」はアメリカから派遣された宣教師の住居であり、明治期を代表する洋館です。今年のゴールデンウィークには弘前・津軽からだけでなく、東北・関東の各県から非常に多くの方にご来場・ご好評いただきました。

保護者の方々にもご覧いただきたく、PTA研修会の開催に合わせて特別公開を行います。ぜひ、時間に余裕を持ってお出かけください!!

世界を旅し、弘前学院にたどり着き、学生に愛されてきた宝物

普段、キャンパスで目にしたことのあるモノ、当然のように見てきた風景でも、この宝物たちが歩んできた歴史や魅力はそれほど語られてきませんでした。創立131年の一步を踏み出した弘前学院。学芸員資格課程の学生がこれらの解説を行います。



*弘前学院外人宣教師館(国重文)

1906年、弘前女学校に奉職していたアメリカ婦人宣教師のための住居として、同校敷地内（現在の弘前市坂本町）に建設され、戦時下を除き1968年まで実際に宣教師が暮らしていました。全国に残る宣教師館のなかでも、当時の建築様式を知る上でも重要なものとして、1978年に国指定重要文化財に指定されました。後に現在の場所に移築され、歴史を語り続けています。

*青い目のお人形

日米の関係が悪化していた1926年に、子ども達の友情による世界平和と日米関係改善を目的として、アメリカから全国の幼稚園・小学校に人形が贈られました。しかし戦時下で「敵国のスパイ」と扱われ処分されてしまい、現在、全国で発見されているものは多くありません。弘前女学校附属の愛光幼稚園に贈られた「エリザベス・ハットン」は1986年に新聞にくるまれた状態で発見されました。



◆お問い合わせ◆

弘前学院大学（弘前市稔町13-1）

TEL 0172-34-5211

facebook「弘学レポート」随時更新中

